かな部

中川拍月

かなは墨色も大事です。ゆっくりと力をかけずに墨を含ませることで発色がよく粒子の細かい美しい墨色になります。そして曲線の回数を少なくすると柔らかい淡い色に、多いと濃くなり、表現が変わってきます。また墨色については、書き出しと墨継ぎに変化をつけて、線の行（濃淡や濃淡）の関連を考えながら制作してください。条幅は三行や四行書きでも表現出来ますが、基本は二行書きを使み重ねて習得されればと思います。

毎回、漢字や院字、所印なしが見うけられ、写真掲載したい作品でも残念ながら出来ません。今一度種類いただき提出してください。

かな部　条幅課題

A　一つ松幾世か経ぬる吹く風の
　　声の清きは年深みかも
（百首三）

・この一首は幾世代を経たのだろう、吹きあたる風の音の清んでいるのは、樹齢が重なっているためだろうか。

B　水鳥の重たく見えて浮きにけり
（上島鬼貫）

・陸を歩いていた水鳥はいかにも重そうに見えたが、水に入ると軽々と浮いた、の意。

（しめきり……十二月十四日）

・条幅出品券を作品の左下へ必ず貼付すること。

なお、作品の裏右下に段位、氏名を忘れず記入のこと。

※五段以上の方はA・Bの両方同時に出品できます。
※二点出品の場合、出品券の下部にA・Bを明記のこと。

（選評）

師範・準師範の部

翠渓 君　墨色軽妙く、線の強弱や疎密の投入方が実に妙味あり。

緑風 君　分をてらうことなく氏四を効果に好感。少一行の結びが必要。

柏葉 君　筆よく立ち結構や潤渇の変化、余白の使い方も見事。

東陽 君　爽やかな運筆で気迫が一貫し横の行との係わりも良い。

佐代子 君　朗まな中に回の取り方や行の流れが良い。更に躍動がほしい。

高井翠渓　平野緑風　坂東柏葉　北村東陽　田中佐代子

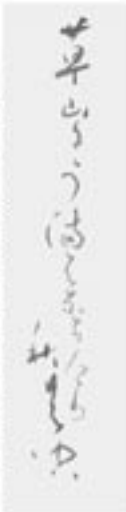
（助教以下の部）

森下幸津子

雅かな線で平衡、墨色ともによく練られた作品。

山岡好子

堂々とした重厚な安定感があり印象もすっきりしている。



西嶋青風

「の」が大きく、その他の文字の組み合わせは、全体をよく吟味している。

山路香渓

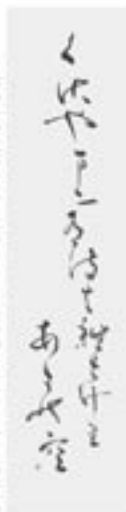
線の強弱で作品の的を射て表現たい。多彩な表現はかつ品がいる。

海野雨泉

雅な線で作品の的を射て表現たい。多彩な表現はかつ品がいる。

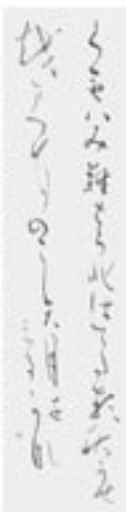
阿井東季

弾力的で粘りある線が魅力。更に二行目上部に太線をつけるとよい。



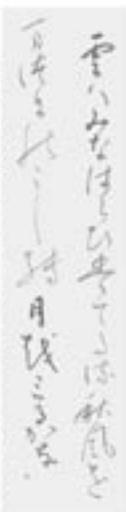
田邊舟星

変化かな字の書きに努力された作。「はなちけり」に注意を。



みやび

無理なく流々と書き放た二行目山場もよく効いている。



松本別子

横と大きく表出なさき仙。「後」「輝」の文字は少し小さく太線を。

田巻知風

力まず自然な流れで清がかな作品に仕上げ込んでいる。